

実施報告書

招聘者： Dr. Nguyen Gia Doi

招聘期間：2023年6月21日～7月3日

2020年度明治大学研究者交流支援制度（Research Mobility Grant）を利用し、Vietnam Academy of Social Science Institute of ArchaeologyのNguyen Gia Doi博士を本学に招聘した。当初の予定では2020年の春学期に招聘予定であったが新型コロナ禍により延期を余儀なくされ、本年度に至ってようやく招聘が実現することができた。この間、延長を認めて頂いた国際連携本部には感謝申し上げる。Doi博士は、ベトナム国内はもとより広く東南アジア地域全体を研究対象とする考古学者であり、特に2015年以後から調査を開始したAn Khe遺跡で、80万年前に遡る世界的にも注目される研究成果を発表されている。今回はこの研究成果を中心に近年の東南アジア地域に於ける人類の居住と地域的な展開、そしてベトナムにおける旧石器文化の発展について大変に興味深い研究成果を発表いただいた。

博士は6月21日に来日され、当日、大学を案内した。特に、考古学博物館の展示資料には強い興味を示されていたのが印象的であった。博士は約30年前に来日されて日本の考古学事情についても深く理解されており、明治大学による岩宿遺跡の調査が日本の旧石器文化の存在を明らかとし、また本学が考古学の多分野に於いて研究を牽引してきたことも良く理解されていた。翌22日には、栗島が担当する考古学専攻性を対象とした授業である「旧石器時代の考古学A」にて、An Khe遺跡の概要を説明いただいた。講義は英語であったが、学生は強い興味を抱いたことが伺われた。特に海外の第一線にいる研究者から、現在、世界的にも注目されている調査成果を聞くことができた点に刺激を受けた様子であった。

6月23日～25日は山梨県（県立考古博物館）、長野県（尖石考古館・ナウマンゾウ博物館）、新潟県（なじょうもん館）などの博物館を見学し、旧石器はもとより日本の代表的な縄文時代の遺物、特に土器群について新たな知見を得られていた。6月26日～30日は東南アジア学会（事務局）を訪問した他、首都圏の博物館や遺跡調査現場を足しげく見学されていた。

7月1日は明治大学にて特別講演を実施した。タイトルは「Lower Paleolithic Industry of An Khe in Central Vietnam」であった。参加者が少なのが残念であったが、講義の内容は東南アジア初の前期旧石器の発見とその石器文化の内容、そしてこの発見が持つ意義について詳細に発表された。特にアフリカからユーラシア大陸への人類拡散が何時、どのように展開されたのか、今後も世界的に議論がなされるであろうとの話は刺激的であった。その場合には、本遺跡の石器群を抜きにしての議論は不可能となるとの見解を述べられていた。DOI氏を中心とした An Khe遺跡の調査成果は日本での紹介が殆どなされておらず、その意味での非常に貴重なものであると共に、世界的にも注目されている大発見の研究成果をいち早く、今回、大学内で授業も含めた講義形式で学生に紹介できたことは大きな意義があったと考えられる。

栗島義明 研究知財黒耀石研究センター

<第1回講義> 6月22日 参加者 21名



<第2回講義> 7月1日 参加者 11名

